

高額療養費制度における自己負担上限額引き上げに関する声明

2025 年度予算案で、高額療養費制度の自己負担上限額引き上げが決定されました。がん薬物治療は、長期間にわたり高額な費用がかかるため、今回の改定は患者さんやその家族にさらなる経済的負担を強いることとなります。

現在でもすでに多くの患者さんが「治療を続けたいが生活費が足りない」「貯蓄を切り崩しても限界がある」「金銭的な理由で治療の選択肢を狭めざるを得ない」と苦悩しています。こうした状況下で自己負担がさらに増えれば、治療の継続が危ぶまれるがん患者が確実に増えるでしょう。

持続可能な社会保障制度を築くには、医療費の増加という課題に対応しながらも、患者さんが適切な治療を受けられる環境を守ることが不可欠です。そのためには、一旦立ち止まって、患者さん、医療機関、学会、行政、製薬企業など、すべての関係者が実情に即した議論を重ね、公平な負担のあり方を慎重に検討することが求められます。

愛知県がんセンター薬物療法部は、経済的な理由で治療を諦める患者が出ないように、関係者間の対話を深め、実効性のある制度設計を強く求めます。

また、そのために必要な活動をわれわれも継続していきたいと考えています。

愛知県がんセンター 薬物療法部